特定非営利活動法人 つくば日中協会

会報 第三号（2025 年 8 月）

発行者：特定非営利活動法人 つくば日中協会
事務局：つくば市松代 1-15-44
Email tjca@tskubajca.com
HP https://www.tsukubajca.com/

1. NPO 法人つくば日中協会会報第三号発刊に際する理事長挨拶　　唐莉莉

これまでに経験したことのないような猛暑日が続いています。会員の皆様におかれましては、暑さに負けず元気にお過ごしのことと思います。また、平素よりつくば日中協会の活動に温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、令和 6 年 12 月 14 日、当協会は設立 30 周年および NPO 法人化 5 周年という大きな節目を迎え、「日中フォーラム 2024」をつくばカピオホールにて開催いたしました。当日は、つくば市長であり当協会名誉会長でもある五十嵐立青様より、地域における国際交流の意義についてご挨拶をいただきました。また、中国大使館の陳諍文化部公使参事官(王賀書記官代読)をはじめ、北京市及び無錫市からもオンラインにてご挨拶をいただき、当協会の長年にわたる民間交流活動に対する高い評価と激励の言葉をいただきました。

衆議院議員の青山大人様、国光あやの様の両先生にもご来場・ご祝辞を賜るなど、当協会の歩みとその意義を改めて実感する機会となりました。国際情勢が不透明さを増す今、私たち市民レベルでの「草の根の交流」は、互いの理解と信頼を育む貴重な架け橋です。文化、教育、青少年、地域経済など多分野にわたり、人と人とのつながりを大切にする交流活動を今後も地道に積み重ねてまいります。この会報が、皆様にとって当協会の活動をより身近に感じていただける一助となれば幸いです。令和 7 年度も、新たな挑戦と出会いに満ちた一年となるよう、共に歩んでまいりましょう。

引き続き、皆様のご支援とご参画を心よりお願い申し上げます。

2. 日中フォーラムについて　　青木克裕

令和 6 年 12 月 14 日（土）つくば市カピオホールにて、「日中フォーラム」（テーマ：文化・芸術の日中交流の歩みと恵み）を開催しました。300 名を越える皆様にご来場いただき、平和友好への思いとその発信にご賛同いただけましたこと深く感謝しております。つくば日中協会は元工業技術院研究員だった不破正宏氏が中心になり任意活動団体として 1993 年末に活動をはじめ、活動の幅を広げるために 2020 年に特定非営利活動法人となり、それらを記念する友好行事として企画いたしました。 「日中フォーラム」という形式では、不定期にその時期に即したテーマを設定し、その都度平和友好 というものについて当協会と市民の思いを発信してまいりました。今回は、複雑化する国際情勢の中で、気が遠くなるほど長い日本と中国間の交流がその時代の情勢に影響されながらも絶えることなく現在に伝わっているこの貴重な「奇跡」にフォーカスしてみようというコンセプトから企画したものです。フォーラムには、名誉会長のつくば市

長五十嵐立青様、衆議院議員の青山山人様、同じく衆議院議員の国光あやの様、中国大使館公使参事官陳諍様、中国からは無錫市国際貿易促進委員会部長李方平様、北京航空天大学副部長李丹教授、さらにここでお名前をご紹介できないほどの多くのご来賓の方々にご臨席いただき、開催の主旨にご賛同いただくことができました。

第一部の文化芸術講演では、第一線でご活躍の専門家の方々のご講演がありました。筑波大学の井川先生から、私たちが中国と日本の間だけと思っていた中国哲学が、実はヨーロッパまで広がっていて世界にも大きく影響を与えてきた史実などわかり易く説明いただきました。万葉集研究家の布浦万代先生、筑波大学芸術系の松井先生、そして中国駐日本大使館文化処王賀先生のお話から、日本と中国は歴史の上で、そして現時点でも、私たちが感じている以上に強い文化的係わりがあり、これからもその交流が未来へ続いていくことを実感以上に体験いただいたのではないでしょうか。とにかく気の遠くなるような長い日中の文化交流の歴史に、皆様にもう一度目を向けて振り返る機会になりましたら幸いでございます。

講演１「日本・世界に影響を与えた中国哲学の普遍性」筑波大学人文社会系教授　井川義次様
講演２「万葉集と中国文化」　万葉集研究家　布浦万代様
講演３「中国における世界遺産保存活動」　筑波大学芸術系教授　松井敏也様
講演４「日中文化交流について」　中国駐日本大使館文化処　王賀様

筑波大学人文社会系
井口義次教授

万葉集研究家
布浦万代先生

筑波大学芸術系
松井敏也教授

中国駐日本大使館文化処
王賀書記官

第二部の音楽の調べでも、各分野の第一線でご活躍の方々から演奏・舞踊披露いただきました。ピアニストの石井絵里様からは、世界中の人々の望みである平和を願い、不安定な 19 世紀のヨーロッパで祖国の平和を願ったショパンから２曲、そして彼の友人リストの「ラ・カンパネラ」の演奏がありました。ラ・カンパネラは「鐘」という意味で、皆様の思いが鐘の音として広く響きますようにという願いです。

箏演奏家の稲葉菜穂子様と尺八演奏家の佐々木徹様には、中国からの影響を受けながらも日本で独自の発展をとげた日本の伝統楽器の箏と尺八の二重奏を演奏いただきました。千数百年の伝統楽器の奥深く澄んだ音色が日中の素晴らしい交流の歴史を鮮やかに映し出しているように感じられる素敵な演奏でした。唐の時代に伝来した舞楽「蘭陵王」を水戸雅楽会の皆様に披露いただきました。「蘭陵王」は中国の北斉の王様が主人公で豪華なお面を被っています。今ではこの舞楽が日本の代表的な伝統芸術になっています。伝来した奈良時代から変わることなく舞い継がれているこの事実に驚きを隠せません。

北京市と成都市の仲間たちから、オンライン参加があり、京劇「坐宮」や四川チベット民族ダンスの披露がありました。当日の 10 分間のために映像に映った多くの仲間たちが準備・練習をして日本の皆さんに見てほしいと言って演じてくれました。四川省成都市からは観光地での映像で、遠くに見えていた山々は四

川省チベット族自治州巴塘地域の高原です。

つくば市で活動しているBMバレエと協会会員及び留学生たちは、今回の「日中フォーラム」のために、18人の中国民族服舞団を編成しました。「羽衣伝説」に出てくるような衣装で素敵な演技が強く印象に残っています。「日中フォーラム」締め括りの演奏は、つくば和太鼓の会「筑鼓（つくどん）」の皆さんでした。当日の演奏のために巨大太鼓を用意して、意表を突く演出と大迫力のステージを楽しませていただきました。そして、巨大太鼓の音は、平和友好の響きとして地球の裏側までも届いたことでしょう。

周恩来元首相の「以民促官」の言葉をおかりしますと、市民から平和友好をひろく発信できた友好行事が開催できたと確信しております。詳細につきましては、協会HPの「2024日中フォーラム報告書」をご覧ください。

3．从职场到戏台：一位退休者的京剧圆梦之旅

つくば日中協会北京デスク　王俊虹

从NTT DATA（中国）公司退休后，我的生活迎来了全新的篇章。起初，我专注于LMI领导力的培训，帮助更多人在职场中成长。然而，2015年，一次偶然的机会，我与京剧结下了不解之缘。

京剧，作为中国的国粹，有着近两百年的悠久历史。它融合了唱、念、做、打等多种艺术表现形式，是一门综合性极强的舞台艺术。京剧的唱腔丰富多样，主要分为西皮和二黄两大声腔体系，不同的声腔和板式能够细腻地表达各种情感。其音乐伴奏由打击乐器和丝弦乐器组成，锣鼓等打击乐器营造出强烈的节奏感，为表演增添气势；京胡、月琴等丝弦乐器则婉转悠扬，烘托出独特的氛围。京剧的角色行当分为生、旦、净、丑四大类，每一个行当又有细致的划分，不同的角色通过独特的扮相、表演和唱腔展现其性格特点。此外，京剧的服饰精美华丽，图案、色彩都蕴含着丰富的寓意，能够直观地反映出角色的身份、地位和性格；脸谱更是京剧的一大特色，通过不同的颜色和图案，生动地展现出人物的善恶忠奸，如红脸代表忠义，白脸象征奸诈，黑脸表示刚正不阿。

自与京剧相遇，我便深深痴迷其中，拜专业的京剧演员为师，学习张派青衣。张派是京剧大师张君秋创立的旦角艺术流派，其唱腔华丽柔美、婉转细腻，行腔圆润流畅，具有独特的艺术魅力。在老师的悉心指导下，我从最基础的发声、运气学起，一点点揣摩张派青衣的韵味，感受京剧艺术的博大精深。随着学习的深入，我对京剧的兴趣愈发浓厚，京剧成为了我生活中不可或缺的一部分。

时光流转，2024年初，我收到了来自日本筑波日中协会的邀请，希望我能在庆祝筑波日中协会成立30周年的大会上演唱一段京剧。这无疑是一个将京剧艺术传播到海

外、促进中日文化交流的绝佳机会。我欣然应允，并与我的搭档——曾获中国中央电视台首届票友大赛金奖的许丹，开始了紧张而精心的排练。

“坐宫”是京剧《四郎探母》中的经典片段，讲述了杨四郎被擒后隐姓埋名，与辽国铁镜公主成婚，十五年后，宋辽交兵，佘太君押粮御敌来到雁门关，四郎思母，被公主识破，四郎实情相告，公主计盗令箭助其出关探母的故事。这段戏中，生、旦的唱段都十分精彩，情感丰富且层次分明，对演员的演唱和表演功力要求极高。排练过程中，我们反复打磨每一句唱腔、每一个动作和表情，力求将这段经典演绎得尽善尽美。

终于，在筑波日中协会成立 30 周年大会的舞台上，我与许丹身着华丽的戏服，带着精心准备的妆容闪亮登场。随着悠扬的伴奏响起，我们全情投入表演，一句句饱含深情的唱词从口中缓缓流出，每一个眼神、每一个手势都传递着角色的情感。尽管我们是在线上与会场连接，但现场观众被京剧独特的魅力深深吸引，演出结束后，掌声经久不息。这次成功的彩唱，不仅是我个人京剧学习成果的一次展示，更是为中日文化交流贡献了一份力量，让更多的日本友人领略到了中国京剧艺术的风采。京剧就像一座桥梁，跨越国界，连接起了中日两国人民的心，而我也有幸成为了这座桥梁的搭建者之一，在传播京剧文化的道路上继续前行。

職場から舞台へ：私の京劇夢実現の旅　　（日本語訳　by 事務局）

NTT データ（中国）を退職後、私は LMI リーダーシップの研修教育に携わってきましたが、2015 年、偶然のきっかけで京劇に出会い、その魅力に深く惹かれました。京劇は「唱・念・做・打」を融合した中国の伝統舞台芸術で、歌唱、演技、衣装、隈取りなどに豊かな表現と深い意味があります。私はプロの俳優に師事し、張派青衣（若い女性役）の技を学び始めました。張派は張君秋が創始した流派で、繊細で優雅な歌い回しが特徴です。

2024 年初め、日本のつくば日中協会からの招待を受け、設立 30 周年記念大会で京劇を披露する機会を得ました。共演者は CCTV 主催のアマチュア大会金賞受賞者・許丹さん。演目は『四郎探母』の名場面「坐宮」で、母を慕う息子と彼を助ける妻の物語です。私たちは歌や動き、表情の一つひとつを丁寧に練習し、オンラインでの公演に臨みました。

当日は華やかな衣装で登場し、感情を込めて歌い演じました。観客の皆さんは画面越しにも関わらず深く感動し、演技後は大きな拍手が起こりました。この舞台は私の学びの成果であると同時に、中日文化芸術交流への小さな貢献でもあります。これからも京劇を通じて人々の心をつなぐ架け橋になれたらと思っています。

3.　中国語講座

3.1 中国語講座開講について

つくば日中協会(任意活動団体の時代)発足時から、留学生を講師に迎えた中国語講座を開講しています。新型コロナウイルスによる活動自粛の時期は対面授業が難しくオンライン授業を行いました。受講者数も少なくて講座運営も危機に直面する４年間でしたが、コロナウイルスが収束して二年、今年度２９回目の開講式になり、多くの受講者に参加いただけるようになり、入門・初級・中級の３コースが開講されています。毎年開講の後に、中国語講座受講生も随時募集しています。

６月には、講師の皆さんと理事会メンバーが集まっての授業研究会を通して、講座運営や内容の課題やその改善などについて討論し、授業に反映させるよう努力しております。受講者の皆さんと留学生の皆さ

んが、中国語講座を通して、楽しく学び、楽しく交流できる場になりますよう理事会一同努力しておりますので、多くの皆さんに気軽に受講いただきたく考えております。

今後とも中国語講座の運営に、ご支援・ご協力いただければ幸いです。

3.2 中国語講座中級コースを受講して　　中国語講座中級コース　川嶋 理香

つくば日中協会の中国語講座に参加して３年目になりました。初年度は拼音の読み方、四声の記号の意味から始める全くの初心者でしたが、丁寧かつ楽しい授業をしてくださる講師の先生のおかげで今まで続ける事が出来ました。

対面での授業を受ける利点は何と言っても正しい発音を直に聞いて口の使い方、音の出し方などを指導してもらえる事と、クラスメートの方達とロールプレイングを沢山する事で実践的な練習が出来た事だと思います。語学は使わないと定着しないとよく聞きますが、日常でなかなか中国語の会話をする機会がない私にとってはこのおかげで習った内容がしっかりと身についたと思っています。

またネイティブの講師の先生からは教科書の内容だけではなく、中国の文化や現地の生活習慣、またネイティブらしい言葉の表現の仕方などを沢山お話ししていただけました。これらの事は参考書だけの独学では決して得られなかった事だと思うので、この講座に参加してとても良かったと思っています。

引き続き、３年目も楽しく参加したいと思っています。

4. 令和６年度中国料理講習会の報告　　川村路子

つくば日中協会の主な行事の１つである中国料理講習会を、９月１日小野川交流センター調理室で、昨年に引き続き中国の方々の協会会員のご協力により行うことができました。中国の家庭では普通に食べている料理で、日本人にとっても名前は聞いたことがあったり、また作ったりされているものもありますが、本場の方々の味を筑波大学留学生や会員の皆さんと一緒に下記の４ 品を作りました。厦門炒米粉（アモイ焼きビーフン）、麻婆豆腐（マーボードーフ）红烧肉（ホンシャオロー）、麻辣鸡丝（マーラージースー）などです。麻辣鸡丝は字の如く鶏肉を蒸したものを糸の様に細く裂き辛いタレを付けて食べるものでした。これでもかと言うほど楊子を使って細く裂くのにはビックリでした。

つくば日中協会の主な行事の１つである中国料理講習会を、９月１日小野川交流センター調理室で、昨年に引き続き中国の方々の協会会員のご協力により行うことができました。中国の家庭では普通に食べている料理で、日本人にとっても名前は聞いたことがあったり、また作ったりされているものもありますが、本場の方々の味を筑波大学留学生や会員の皆さんと一緒に下記の ４ 品を作りました。厦門炒米粉（アモイ焼きビーフン）、麻婆豆腐（マーボードーフ）红烧肉（ホンシャオロー）、麻辣鸡丝（マーラージースー）などです。麻辣鸡丝は字の如く鶏肉を蒸したものを糸の様に細く裂き辛いタレを付けて食べるものでした。これでもかと言うほど楊子を使って細く裂くのにはビックリでした。

また紅焼肉は日本で言えば豚の角煮のようなものですが、見るから　に豚バラ肉の脂が気になるところです。ですが出来上がってしまえば、何とその脂が全く気にならないほど甘辛く美味しく、また一緒の鍋で煮た丸ごとのジャガイモが格別に美味しかったです。厦門炒米粉、麻婆豆腐も本場の調味料を使って日本人の口に合うような味付けで、参加者一同大満足でした。調理もほぼ予定通りに完成し、食事をしながら、歓談し、一段落したところで、自己紹介や料理の好評などしあい、和気あいあいと中国料理講習会を終わることができました。

5. 筑波山登山について　　由布宗郷

2024 年の筑波山登山は 11 月 26 日に実施しました。

当日は素晴らしい快晴で、ウォーキング事業計画にしたがい実施しました。9:00 につくば市神郡駐車場を出発し、筑波山神社、ふれあいの里を経由して、無事 15:30 に出発地点に到着しました。帰路に、スズメバチ駆除作業の現場に遭遇し、安全のため 10 分程度移動を中断しまたが、問題なく通過できました。
8:00 に筑波大学の駐車場につくば日中協会会員と学生が集合し、乗り合わせで市営神郡駐車場に移動し、協会で用意したおにぎりとみかん、飲物を全員が受領した後、理事長の挨拶があり、その後担当の遠藤理事よりスケジュール、経路及び安全上の注意がありました。グループ長等に小旗を渡し、参画意識の高揚に努めました。

市営神郡駐車場で、出発前の記念撮影

登山開始にあたり、筑波山全景を背景に集合写真を撮影しました。その後交通安全に留意しながら最初の目的地・筑波山神社を目指し出発しました。進むのは日本の道 100 選の一つ「つくば道」。車両が接近した時は遠藤理事がハンドマイクで知らせて安全を確保しました。先頭は曽監事、最後尾には厳理事が担当し、参加者全員の体力のチェックなど注意しながら登りました。収穫の終わった田んぼの間を抜けると、古い民家が立ち並んでいます。出発して 30 分後、六丁目の鳥居（一ノ鳥居）に着いて短い休憩を取りました。

ここを過ぎると急な坂道が続きました。15 分ほど登ると、左手に白い塀に囲まれた古民家が現れました。「古民家空間 つくば椿庵」。明治 2 年(1869 年)に建てられた旧杉田邸を再生させたとのこと。明治元年の大火事で、この辺りは全て燃えてしまったため、この建物は現存する最古のものだそうです。旧筑波山郵便局を過ぎると、筑波山神社に到着しました。ここまでは急な上り坂がありましたが、休憩を交えて登山しましたので全員無事に到着しました。

筑波山神社に 10:30 ごろ到着し、長めの休憩をとりました。11:00 に集合写真を撮影し、次の目的地、ふれあいの里に向かい出発しました。12:00 ごろふれあいの里に到着し、車で先行していた川村理事がブ

ルーシートを用意してくれたので、そこで昼食をとりました。学友会の代表から挨拶があり、この事業に対する謝意が述べられました。そのあとアトラクションとして伝言ゲームなどを楽しみ交流しました。

筑波山神社を目指す出発

六丁目鳥居前

急な坂道をさらに登ると、明治 2 年（1869 年）築の古民家「旧杉田邸」

筑波山神社で記念撮影

14 時ごろにふれあいの里を出発しました。神郡駐車場に全員が無事到着し、人数確認後に車に分乗して筑波大学に帰着しました。

5.2 越える山がつ情——

国境を交流、登なぐ友筑波秋

の登山紅葉イベント　　LIU　BO　劉波

2024 年 10 月 26 日、筑波大学中国人留学生学友会とつくば日中協会の共催による「秋季登山紅葉交流イベント」が無事開催されました。本イベントは、茨城県筑波市の名所である筑波山を舞台に、毎年恒例となっている中日交流活動の一環です。今年も中国人留学生 25 名とつくば日中協会側の 15 名、合わせて 40 名が参加しました。

私自身、このような交流イベントに再び参加することができ、とても嬉しく感じています。朝 8 時半、私たちは筑波大学に集合し、主催者が用意した送迎車で筑波山へと向かいました。9 時半頃、山のふもとの駐車場に到着し、つくば日中協会の方々から、昼食、果物、飲み物などをご用意いただき、登山の流れや注意事項についての丁寧な説明を受けました。

出発前に集合写真を撮影した後、みんなで筑波神社を目指して登山を開始しました。登山中は、写真を撮ったり、おしゃべりをしたりしながら、和やかな雰囲気の中で進みました。私を含め、日常的に日本語を話す機会が少ない留学生も多くいましたが、言葉の壁を越えて、皆が笑顔で交流していたのがとても印象的でした。日本の方々もとても親切に声をかけてくださり、簡単な日本語や中国語、英語、ジェスチャーなどを使いながら、自然と打ち解けることができました。

11 時半ごろ、筑波山神社に到着。ここでのおみくじはよく当たるとのことで、何人かの留学生はさっそく試してみる様子も見られました。その後、神社前で再び集合写真を撮影し、近くの屋外ステージ（筑波ふれあい広場）に移動して昼食と交流活動を行いました。

外ステージでは、私たち留学生が中心となって「伝言ゲーム」を企画しました。日本人の方がお題を中国語で、中国人の方はお題を日本語で次の人に伝えることで、言語の違いによる新たな楽しさが生まれました。参加者は 6 つのグループに分かれ、それぞれが知恵とユーモアを交えて挑戦しました。言葉がうまく伝わらない場面もありましたが、身振り手振りを使った説明が逆に笑いを誘い、会場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。

昼食後には、学生同士だけでなくつくば日中協会の方々とも、留学生活や将来の夢について語り合う時間もあり、文化を越えた相互理解と新たな友情が芽生える貴重な場となりました。

午後 2 時半ごろ、私たちは最後の集合写真を撮影し、山を下って筑波大学へと戻りました。体力的には少し疲れを感じたものの、心はとても満たされていました。

唯一の心残りは、筑波山の紅葉がまだ完全には色づいていなかったことです。しかし、色づき始めた木々が見せる柔らかな秋の風景もまた美しく、心に残る光景でした。

今後もまた、このような素晴らしい日中友好交流の機会に参加できることを楽しみにしています。

5.3 筑波山麓、二つの声が重なるとき　　筑波大学中国人留学生　王夢琪

昨年の十月下旬、秋の気配が訪れ、雨に洗われたように空気が澄んでいたある週末、私は筑波大学中国

人留学生学友会と NPO 法人つくば日中協会の共催で行われ、 筑波山麓を歩くウォーキング散策イベントに参加した。

当時、私は筑波に住み始めて半年ほどが経ち、大学の授業や学友会の 10 月の新歓イベントの準備に追われる日々を送っていた。忙しさにかまけて、筑波の名所を訪れる機会もなく、そんな中、学友会から「月末にウォーキングイベントを開催する」との案内が届き、先輩からも熱心な勧めを受けた。自然と心が動き、「せっかくだから参加してみよう」と、期待を胸に申し込みを済ませた。当日、集合場所には、つくば日中協会の方々が続々と集まり、爽やかな笑顔で出迎えてくれた。このとき、私は初めて唐会長とお会いした。彼らは手際よくグループ分けや移動の段取りを進めてくれた。車に分乗し、一の矢の街並みを抜けて、筑波山麓へと向かう。

今回のコースは、登山口の駐車場から山腹の筑波山神社まで歩き、別ルートを通って再び戻ってくるというもの。協会の方々が先導し、昼食用のお弁当も配られ、参加者への心遣いが感じられた。私は、先頭に近い位置で歩きながら、農地や民家の間を抜け、協会の方々とお互いの国や学生生活について会話を楽しんだ。振り返ると、皆が笑顔でおしゃべりしながら歩いており、言葉は違えども、その場に流れる温かさは同じだった。

正午ごろ、筑波山神社に到着し、昼食と自由時間が設けられた。私にとっては初めて訪れる筑波山であり、この地が「山登りの始まり」であると同時に、自分にとっての「筑波探訪の始まり」でもあった。神社のベンチでお弁当を食べながら、協会の方々から「バナナは筑波山の標高の語呂合わせである」とか、「今年は気候の影 響で紅葉が見られないかもしれない」といった地元の話を聞き、学びの多いひとときとなった。 帰り道では、紅葉こそ見られなかったものの、学友会のメンバーが用意したアイスブレイクゲームで盛り上がった。中国語と日本語を交えて行う伝言ゲームは、お互いの言語を学びながら、笑いの絶えない交流の場となった。 山を下りる途中で蜂の駆除作業により一時立ち止まるハプニングもあったが、それもまた旅のスパイスとなった。午後、農地の風景を眺めながら出発地点に戻り、 再び車で大学へ戻った。

別れ際、唐会長が私の肩を叩き、「ご苦労様でした」と声をかけてくれた。その瞬間、学友会としての責任を果たした達成感と、つくば日中協会の皆様への深い感謝が胸に込み上げた。異文化交流とは、実は人と人との素朴なつながりにほかならない。そしてその心の触れ合いが、国や言葉の壁を越えて、今この時を生きている実感を私たちに与え てくれる。 あの日の空高く澄んだ秋の週末の記憶は、今も私の心に温かく残っている。

6. 中国からの便り

6.1 中日文化交流の概況と展望（フォーラムの講演内容） 中国大使館書記官 王賀様

今日は茨城県に来て、「つくば日中協会設立 30 周年および NPO 法人化 5 周年」の記念イベントに参加し、ここで中国文化が好きで、中日文化交流に関心を持っていらっしゃる方々に会えて、とても嬉しく思います。今日は皆さまに私の中日文化交流に対する考えや、両国の文化交流に関する展望についてお話ししたいと思います。

中日文化交流は深い歴史を持っています。中日両国は一衣帯水の隣国であり、2000 年以上にわたる文化交流と人の往来の歴史があります。特に、両国が国交正常化を実現してからの 50 年以上の間に、文化交流は中日関係の発展や中日友好の促進において、不可欠な役割を果たしてきました。たとえ両国の関係が困難な時期を迎えたとしても、文化交流は決して途絶えることはありませんでした。さまざまな分野での文化交流は、両国の文化の相互学習と相互理解を促進するだけでなく、民間の友好交流の重要な絆ともなっています。昨年以来、コロナの収束に伴って、両国間の人の往来が急速に回復し、さまざまな分野とレベルでの文化交流活動が活発しており、中日文化交流の確固たる基盤と強力な魅力を示してきました。私の日常業務の中でも、京都や奈良などの都市計画や建物、また七宝焼きや隠元豆などの民衆の日常生活に関わるものにおいても、中日文化交流の投影を感じております。

次は、中日文化交流の現状についてです。近年、中日文化交流は喜ばしい成果を遂げています。公的交流においては、両国はそれぞれ国交正常化 50 周年や中日友好協力関係協定締結 45 周年などの一連の記念イベントを開催し、友好交流の雰囲気が濃厚です。2022 年の北京冬季オリンピックや 2023 年の杭州アジア大会が成功裏に開催され、第 10 回中韓日観光大臣会合および第 15 回中韓日文化大臣会合がそれぞれ神戸と京都で行われ、「会議成果文書」と「京都宣言」が発表されました。地方都市交流においては、2013 年に「東アジア文化都市」プロジェクトが始まって以来、30 以上の文化都市が選定され、都市間の多彩な交流を通じて、都市の知名度と国際的影響力を向上させ、文化の発展が都市の新たな成長の原動力となっています。筑波市は日本のイノベーション都市として、早期に「東アジア文化都市」への仲間入りを心から希望しています。民間交流においては、兵馬俑文物展、デジタル故宮展、大シルクロード展などの国家級展覧会が相次いで日本で開催され、「空海」交響楽団のコンサートや「東渡」公演が好評を得ており、東京国際映画祭や上海国際映画祭においても両国の映画交流がますます活発になり、映画合作のレベルも着実に向上しています。中日両国は、書道、美術、文化財、舞台芸術、映画などの伝統文化分野で豊かな成果を上げているだけでなく、アニメ、ゲーム、スポーツなどの分野でも多様な交流が展開されており、両国の人々の相互理解と文化的認識が一層に深まっています。

そして、中日文化交流への希望です。現在、中日関係は改善と発展の重要な時期を迎えています。先日、習近平主席と石破茂首相がリマで会談し、両国の指導者は中日間の 4 つの基本文書の諸原則と共通認識を堅持し、戦略的相互関係を全面的に推進することを確認しました。これにより、今後の両国関係の方向性が示されました。

私はつくば日中協会が引き続き両国の文化交流の「推進機」としての役割を果たし、さまざまな分野での文化交流を通じて民間の友好基盤をさらに強化することを期待しています。また、筑波市の皆様が大使館や中国文化センターなどの友好機関、友好団体が主催する展覧会、演奏会、お祭り、芸術祭、文化祭などのさまざまな文化交流イベントに積極的にご参加され、コミュニケーションの輪を広げ、互いに交流を深めることを歓迎します。「文化は相互理解によって輝く」という言葉の通りです。

青少年は中日両国の未来発展を担っています。さまざまな青少年文化交流活動を積極的に展開し、彼らに中国と日本の本物の文化を体験させるべきです。交流を通じて相互信頼と友情を築き、中日友好の後継者をより多く育成することをともに目指していきましょう。

中国政府は先月、日本国籍者に対して 30 日間のビザ免除政策を実　施すると発表しました。これは、中日間の人的往来を促進する明確なシグナルでしょう。これを機に、つくば日中協会に訪中活動を多く企画していただき、中国の近年の発展と変化を見学し、本場の中華料理を味わい、中国の人々の温かいもてなしを感じていただきたいと思います。

最後に、ぜひご都合の良いお時間に当大使館にご訪問いただければ幸いです。そして本日、皆様のご健康をお祈り申し上げるとともに、つくば日中協会のますますのご発展を心よりお祈りいたします。

6.2 四川省の民族舞踊や珍しい楽器の紹介

つくば日中協会郫都デスク　王強

弦子舞（巴塘弦子舞），四川省巴塘县传统舞蹈，国家级非物质文化遗产之一。“弦子舞”藏语称“嘎谐”，流行于西藏东部及云南、四川、青海藏族聚居区，以四川巴塘弦子最为著名。巴塘弦子舞是一种优美抒情的藏族舞蹈，在表演时，由几名男性持乐器“毕旺”（弦胡）在队前演奏领舞。余舞者和他们一起唱边舞。

碧汪（弦胡）是藏族特有的乐器，也代表一种藏族文化。碧汪（弦胡）由琴筒（共鸣箱）、琴杆、弦轴、千斤、琴马、琴弦和琴弓等部分构成(插图)。形制无固定规格，全长 55 厘米～68 厘米。琴筒为圆筒形，

有牛角、木或竹制三种（插图）。牛角琴筒是必汪的最早形式，多采用较粗大的野牛角制作，并以雌野牛的角质最佳。将角根、角尖截去，用靠近根部分制成，筒身后部向上弯。后因野牛角难以寻找，才逐渐改为木制琴筒。木制琴筒常使用

核桃木、桦木、杉木或松木制作，用一段原木，将其中掏空即成，筒长 13 厘米～17 厘米、前径 10 厘米～13 厘米、后径 9.5 厘米～11 厘米。竹制琴筒使用经 长年自然干燥的老毛竹制成，数量很少。将琴筒上下开出插入琴杆的方孔，筒前口多蒙以山羊皮或者马皮，近年来也有少数蒙以蟒皮者，筒后端敞口。琴杆为上方下圆的柱状体，多使用质地较坚硬的木材制成，藏区常用当地所产的杜鹃木、青冈木或白杨木等制作，弦轴及其以上部位呈方柱形，顶端为琴头，多雕刻成方塔形或圆球状，琴杆右侧有两个木制弦轴。轴头为圆锥形，轴顶为多棱形、不规则圆柱形或旋成圆球形。琴杆中、下部呈圆柱形，其上系有丝弦千斤，琴杆下端插入琴筒方孔中。琴筒皮面中央置有木制琴马。张两条琴弦，传统多用黑色马尾弦，四川巴塘则以黑马尾作外弦，白马尾为内弦；近年来已开始使用丝弦。琴弓用竹条作弓杆，弯成满弓状或半圆形，两端系以黑色马尾为弓毛，弓长 34 厘米～57 厘米，长短因奏者而异。必汪的外表装饰，以四川巴塘一带的最为精美（图片），一般则在琴头饰以彩雕，琴筒和琴杆上绘有鲜艳的民族图案。

藏族碧汪（弦胡）音色卓异，风格独特。近年来，藏族碧汪（弦胡）演奏也开始受到越来越多人的关注。很多音乐家们开始探索和研究这种独特的音乐文化，让更多的人了解和欣赏到它的美妙之处。如果你还没有听过藏族碧汪（弦胡）演奏，那么欢迎你来到藏区，一起来感受一下它的独特魅力吧。

（日本語訳　by　事務局）

四川省巴塘県の伝統舞踊である絃舞（バタン絃舞）は、国家無形文化遺産の一つです。「絃舞」はチベット語で「哈謝（ガ・シェ）」と呼ばれ、東チベットや雲南省、四川省、青海省のチベット人居住地で広く親しまれています。中でも最も有名なのは四川省の巴塘絃舞です。巴塘絃舞は、美しく叙情的なチベット舞踊です。公演中、数人の男性が楽器「ビワン」（絃琴）をチームの前で持ち、演奏と踊りをリードします。残りのダンサーは彼らと一緒に歌い、踊ります。

ビワン（絃琴）はチベット独特の楽器であり、チベット文化を代表するものです。碧王（弦楽器）は、琴管（共鳴箱）、琴棒、弦糸、琴橋、琴橋、琴弦、琴弓で構成されています（図）。形状に決まった規格はなく、全長は 55cm～68cm です。琴管は円筒形で、牛の角、木、竹で作られています（図）。牛角琴管は碧王の最も初期の形で、主に太い野牛の角で作られ、雌の野牛の角が最適で、角根と角先を切り落とし、根元に近い部分を使って楽器を作ります。楽器の裏側は上向きに曲げられています。その後、野生の水牛の角を見つけるのが困難だったため、徐々に木製楽器に変更されました。木製楽器の管は、クルミ、シラカバ、モミ、マツなどの木材で作られることが多いです。丸太の一部をくり抜いています。管の長さは 13cm～17cm、前径は 10cm～13cm、後径は 9.5cm～11cm です。竹製の楽器管は、長年自然乾燥させた古い竹で作られています。数は非常に少ないです。楽器管の上部と下部に、楽器の棒を挿入するための四角い穴が切られています。管の前面は主にヤギ皮や馬皮で覆われていますが、近年では少数がニシキヘビ皮で覆われています。管の後ろは開いています。楽器の棒は、丸い上部と丸い底を持つ円柱状の体で、ほとんどが硬い木材で作られています。チベット地域では、地元産のツツジ材、ソテツ材、ポプラ材で作られることが多いです。ペグとその上の部分は四角い柱です。上部は楽器の頭で、ほとんどが四角い塔や球に彫られています。楽器の棒の右側には 2 つの木製のペグがあります。軸頭は円錐形で、軸上面は多面体で、不規則な円筒形または球形である。棹の中央部と下部は円筒形で、絹の弦棹が結び付けられ、棹の下端は管の四角い穴に差し込まれる。管皮の中央には木製のブリッジが設置されている。弦は 2 本で、伝統的には黒色の馬の尾弦が用いられるが、四川省巴塘では外弦に黒色の馬の尾、内弦に白色の馬の尾が用い

られる。近年では絹弦も使用されるようになっている。弓は竹を弓軸として、全弓形または半円状に曲げ、先端に黒色の馬の尾を結び付けて弓毛とする。弓の長さは 34cm から 57cm で、演奏者によって長さは異なる。ビワンの外装装飾は四川省巴塘で最も精巧で（写真)、楽器の頭部には一般的に色鮮やかな彫刻が施され、管と棹には鮮やかな民族模様が描かれている。チベットのビワン（絃琴）は独特の音色と演奏スタイルを持ち、近年ではその演奏もますます注目を集めています。多くの音楽家がこの独特な音楽文化を探求し、研究するようになり、より多くの人々にその美しさを理解し、鑑賞する機会が生まれています。チベットのビワン（絃琴）の演奏をまだ聴いたことがない方は、ぜひチベット地方を訪れ、その独特の魅力を体感してください。

令和 7 年度 NPO 法人つくば日中協会役員会

名誉会長	五十嵐 立青　（つくば市長）
顧 問	布浦 万代
理 事 長	唐　莉莉
副理事長	青木 克裕
常務理事	杜　明遠
理 事	川村 路子
	厳　康敏
	由布 宗郷
	中山 由美
	遠藤 一昭
監 事	飯田　茂
	曽　継業

編集にあたって　　**事務局**

長かった新型コロナウイルス感染拡大の恐怖からやっと世界が開放され、私たちつくば日中協会の活動も元の軌道にもどることができました。マスクをしない皆さんの笑顔が見られるようになり、本当によかったと思っています。

昨年 12 月には多くの皆様にご賛同いただき、5 年ぶりに「日中フォーラム」を開催し、日中友好の大切さを発信できたものと考えております。

つくば日中協会としまして、ここに会報第三号を皆様にお届けし、これからも社会に貢献できる団体としての活動をお約束申し上げたく存じます。

今後とも、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。